

大切な 甲賀市の自然 ⑪

甲賀市内にすむ
絶滅が心配される動植物や
それらを育む大切な
自然についての連載です

早春の木の花 コウヤミズキ

コウヤミズキは、3月下旬から黄色の花が咲く、マンサク科の低木です。山地の林の縁や川の流れに沿って、タムシバやムシカリの白い花とともに、芽吹き前の褐色の木々の間を黄色に彩ります。小さな花が房のように集まり、垂れ下がって咲いています。

本州の中部地方以西と四国、九州の岩地に点々と生育する場所があるだけで、滋賀県でも、甲賀市の信楽から大津市田上の花崗岩地帯に限られた場所にしか生えていません。特定の地域にしか生えないことから、「大切にしたい滋賀の野生生物」(2005)では分布上重要種として掲載されています。

同じ仲間にはトサミズキがあり、庭木として親しまれていますが、その名から分かるように、高知県の蛇紋岩地帯のみに生育している植物です。近年の開発や採取により、自生地が減り続けているため、環境省では絶滅のおそれのある植物としてとりあげています。

甲賀市のコウヤミズキも、その生育環境を保全し、次の世代へ野生の姿を引き継ぎたいものです。



▲コウヤミズキ

3月の
休園日

5日(月)、12日(月)、19日(月)、
22日(木)、26日(月)

みなくち子どもの森自然館
☎ 63-6712 FAX 63-0466

甲賀市文化協会連合会文芸欄

今回は、甲南町文化協会からお寄せいただきました。

ほおじろ短歌会

- ・横たわる第二名神 またひとつ甲南町の景色移ろう 今村 緑
- ・天候の変わる兆しか人体のあばらの骨の如き雲出ず 鵜飼 洋子
- ・つばくろは身も軽々と宙返り古巣忘れずこの甲南へ 岡崎 照
- ・桜花の咲く頃は寂しえ弟の柩に納めしさくら一枝 桂 歌子
- ・杉の苗転作田に植える夫田植えせし日は遠くなりゆく 木下 房乃
- ・ひとり居となりし二人の長電話それぞれ受話器置きかねている 北川 浩子
- ・初節句 赤いランドセル 孫達の春の装い亡夫に見せたい 千葉 和子
- ・先になり後になりして児童と帰るスクールガードの腕章つけて 八里 いよ
- ・洋菓子の期間限定の桜食めば春の香ほのかに口にひろがる 藤田 悦子
- ・太陽が落ちし如くに輝きつぎつぎ星を生みゆく池の面 堀井 菊野
- ・亡き母の靴にも青を踏ませつつ梅見に夫と月ヶ瀬歩む 御崎ミサ子
- ・増築のために壊される柱壁我が身削らるる如くに見入る 山脇知鶴子
- ・いじめ自死 虐待どれも『温もり』を置き忘れゆく時代の産物 村井 君代

次号(4月1日号)は、甲賀町文化協会の予定です。